

令和7年度

徳島市富田中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

未来につながる今を大切に、
私たちの幸せ(ウェルビーイング)の実現に向け、
自ら考え選択し、行動できる生徒の育成

校長

滝川 尚

学力向上推進員

木津教諭
上野教諭

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○ 学校評価アンケートの結果から、約9割の生徒が授業に対してわかりやすさを感じている。</p> <p>● 学力の二極化が生じており、すべての生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しているとは言い難い。</p>	<p>基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する。</p>	<p>・学習指導要領や徳島県教育委員会が公表している支援策を中心に、各教科で目指す子供の姿を正確に理解する。</p> <p>・授業の中に「すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント(国語力向上タスクフォースの提案から)」で示された視点や授業のユニバーサルデザインを取り入れ、障壁を除く工夫をする。</p>			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○ 対話や自己表現を必要とする活動に対して積極的に取り組んだり、活動を通して新たな見方・考え方を働かせたりすることができる。</p> <p>● 課題を自ら見いだす力、思考力・判断力・表現力を関連づけて活用する力が十分とは言えない。</p>	<p>対話を通して仲間と協働し、共に課題の発見・解決を図る。</p>	<p>・すべての教育活動でファシリテーションの浸透を図るとともに、生徒自らが問いを立て、仲間との協働的な学びにつなげられるよう発問を工夫する。</p> <p>・教育DX推進事業と関連させ、各学期に1回相互授業参観を行い、ICTを活用した授業実践を公開する。また、昨年度に引き続き、「富田中ICT活用モデル」を作成する。</p>			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○ 学校評価アンケートの結果から、約9割の生徒が主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p>● 興味関心が低い分野の学習には消極的であったり、点数や評価が目的になっていたりする。</p>	<p>自分なりに学ぶ意義を見いだしながら、自ら考え選択し、責任をもって行動する。</p>	<p>・すべての教科で学習目標の達成に向けて、学習の見通しと目的意識を生徒と共有する。</p> <p>・伴走者として生徒と関わり、問いかけや励まして生徒の自走を促す。また、生徒の達成状況を見える化してフィードバックする。</p>			